

**既婚男性の独り行動に
関するマーケティングデータ
～休日編～**

朝日大学マーケティング研究所

- 調査手法 : WEBリサーチ
- 調査期間 : 2014年4月21日(月)～4月25日(金)
- 調査対象 : ・首都圏在住の30歳～69歳の既婚男性
- 有効回答 : 413名

【内訳】

男性	30代	100名
	40代	105名
	50代	105名
	60代	103名

合計		413名
----	--	------

■「独り行動」の定義

既婚者で同居家族がいるにも関わらず、仕事帰りや休日の日中に様々な場所で気ままに採られる行動と定義

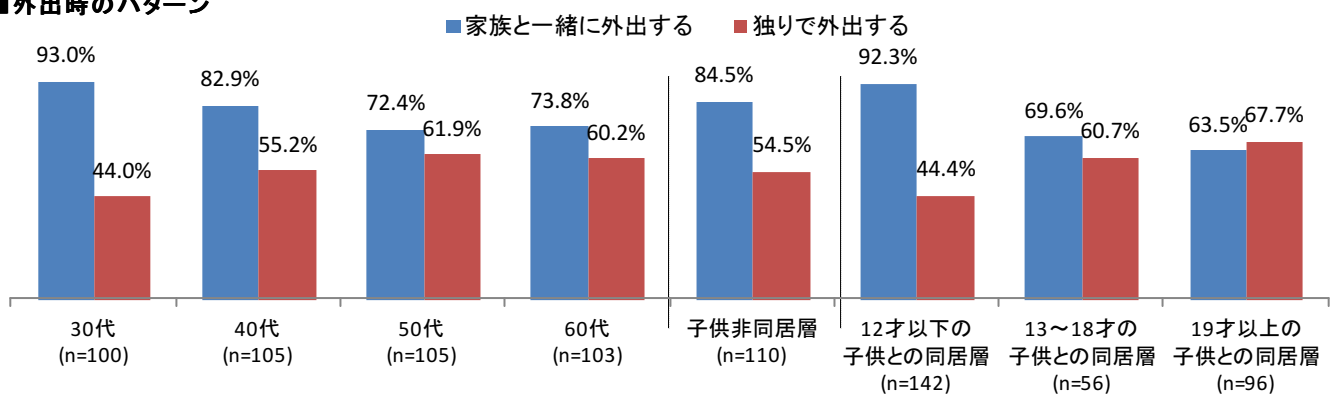
- 休日の日中に独りで行動することが多いのは、50～60代や同居している子供の末子年齢が高い層。
- 30代や同居する子供の末子年齢が12才以下の層では、在宅時も外出時も、家族と一緒に過ごす割合が9割を超える。
- 休日の日中に独りで行動することが多い層ほど、その意識も強い。仕方なくというより、自らが積極的に独りで行動している。

Q.お仕事が休みの日の日中、あなたはどのように過ごすことが多いですか？

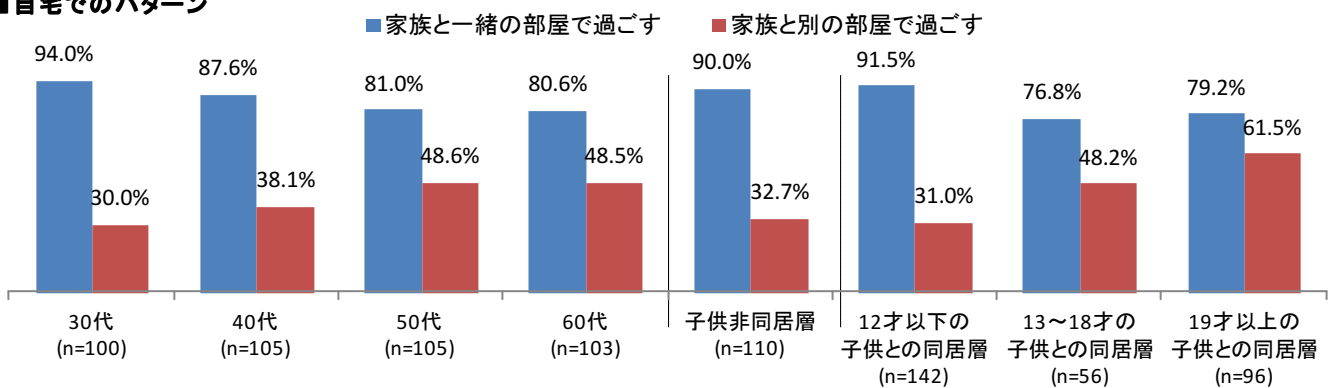
※比率は各気分に対する「とてもあてはまる」「ややあてはまる」の合計

※子供との同居層の年齢は末子年齢

■外出時のパターン

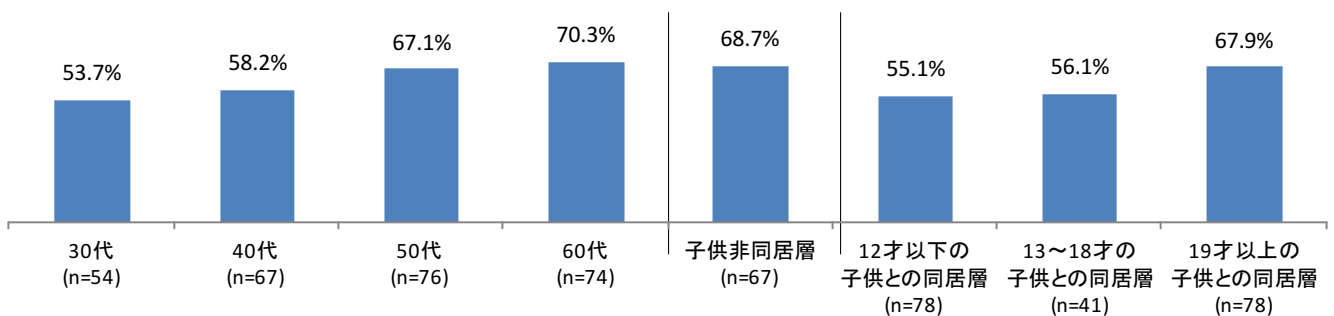


■自宅でのパターン



Q.お仕事が休みの日の日中に、自ら積極的に独りでお過ごしになっているのですか？

※n=休日の日中に関して、「ひとりで外出する」「家族と別の部屋で過ごす」のいずれかがあてはまった人

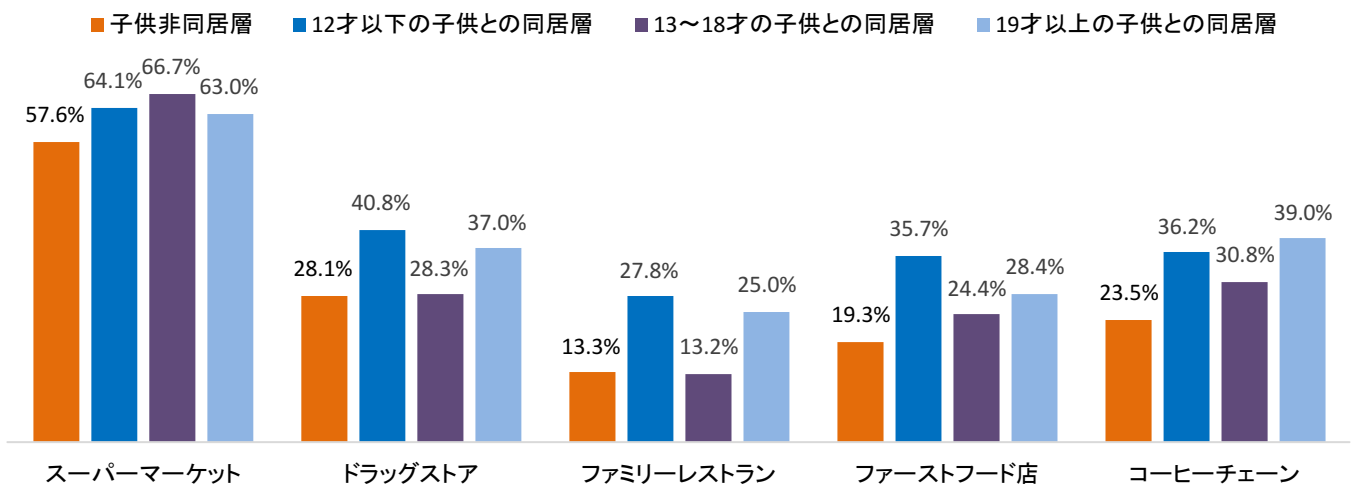


※「子供との同居層」には、配偶者(母親)も同居している層のみ抽出

2. 休日日中の「独り行動」の特徴

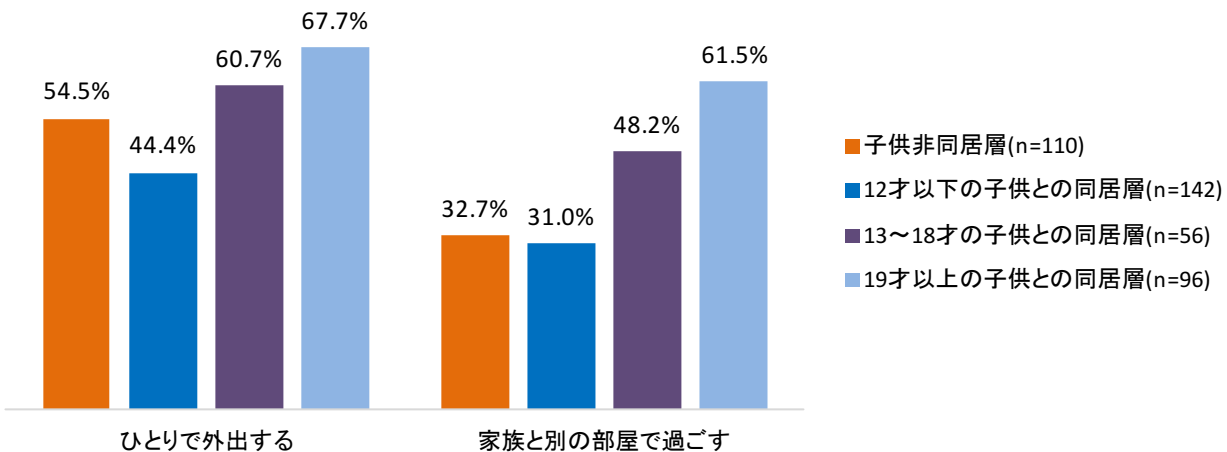
- 平日帰宅途中と休日日中のそれぞれの独り行動を比べると、同居する子供の末子年齢が12才以下の層で逆の特徴が見られる。
- 同居する子供の末子年齢が12才以下の層による独り行動は、平日帰宅途中が中心であり、休日日中にはあまり行われない。小さな子供がいる環境では、自宅から独りでは外出しにくいものと思われる。
※既婚男性が独りでお店に立ち寄ったり、休日に独りで外出する行動を「独り行動」と定義する

■平日の仕事帰り途中の独り行動(各店に月2回以上立ち寄ると回答した人の割合)



※n=各店が職場からの帰宅途中にある層	スーパーマーケット	ドラッグストア	ファミリーレストラン	ファーストフード	コーヒーチェーン
子供非同居層	92名	89名	83名	88名	85名
12才以下の子供との同居層	131名	130名	115名	126名	116名
13~18才の子供との同居層	48名	46名	38名	41名	39名
19才以上の子供との同居層	81名	81名	76名	74名	77名

■休日の日中の独り行動(各項目に「あてはまる」「ややあてはまる」回答した人の割合)



※「子供との同居層」には、配偶者(母親)も同居している層のみ抽出

3. 休日日中の「独り外出」の実態

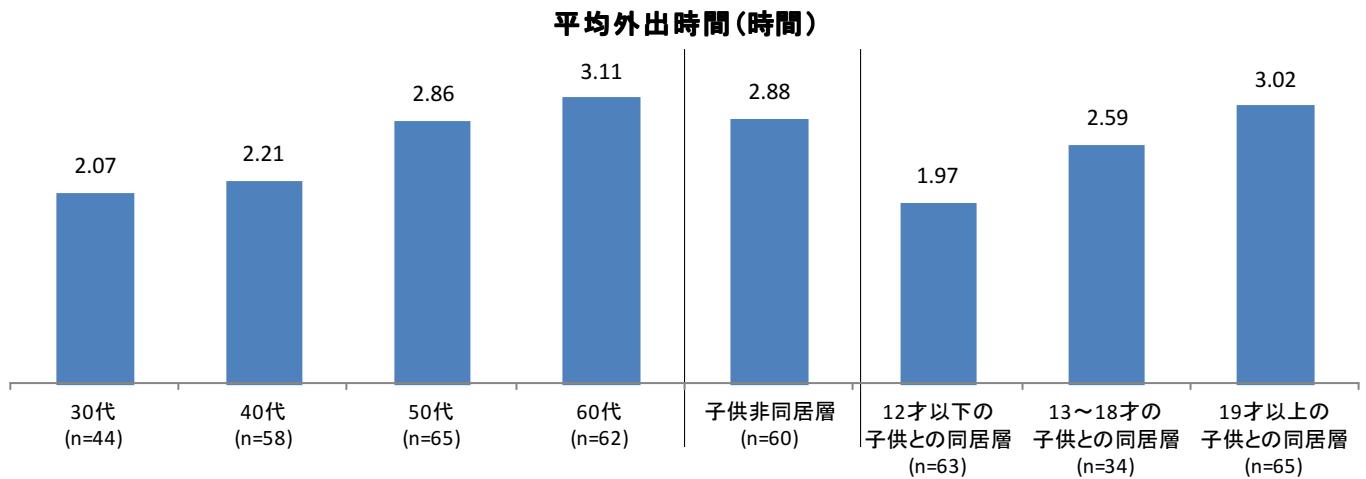
- 休日の「独り外出」の平均所要時間は2～3時間、それほど長い時間は要しない。例えば、昼食後にフラッと出掛けて、夕食前には戻ってくるような近場への外出が想定できる。
- 簡単な外出だが、そこでは平均で1500～2000円が消費される。大きな金額ではないが、外出の習慣性を考えれば、月単位ではそれなりの消費額である。

※休日の日中に独りで外出する行動を「独り外出」と定義する

※全ての図表について：n=休日の日中に独りで外出する層

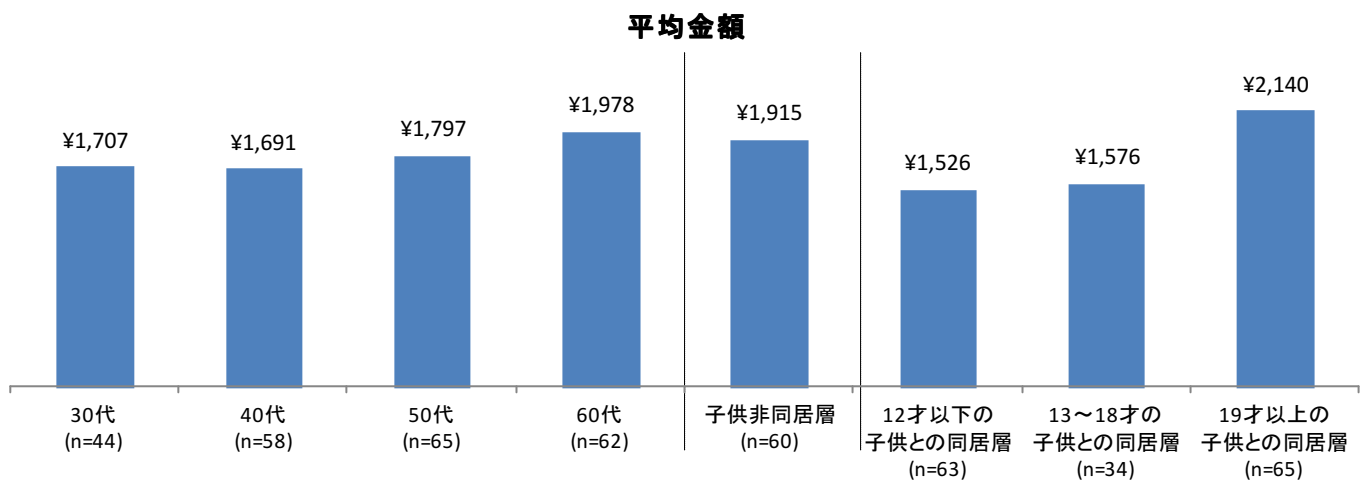
■「独り外出」の時間

Q.仕事か休みの日の日中に、ひとりで外出する際の平均的な外出時間はどれくらいですか？



■「独り外出」での平均消費金額

Q.仕事か休みの日の日中に、ひとりで外出する際、外出に伴う出費は1回あたりの平均でどのくらいですか？



※「子供との同居層」には、配偶者(母親)も同居している層のみ抽出

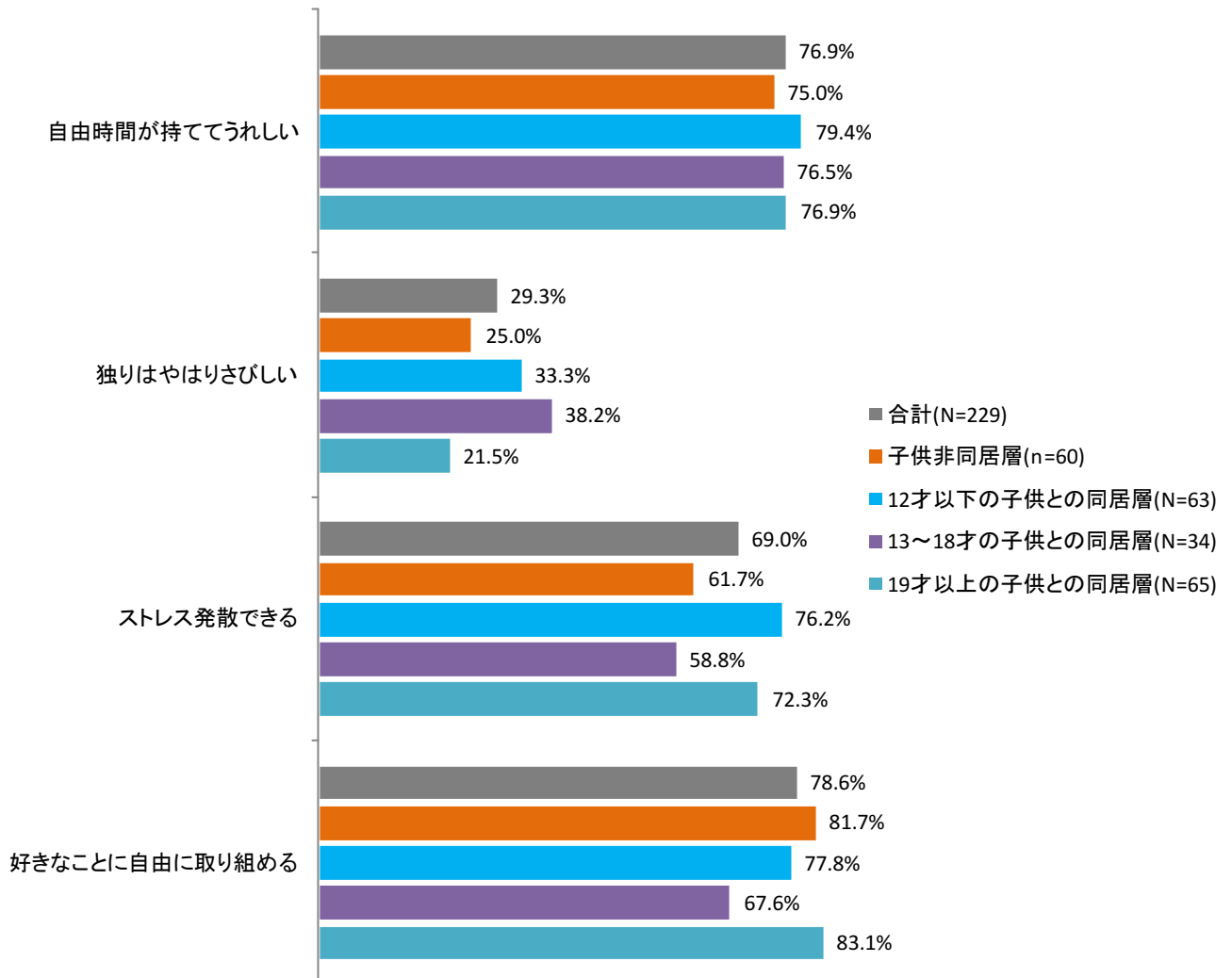
4. 休日日中に「独り外出」をする気分

- 休日日中の「独り外出」に対しては、「独りはさびしい」と思うより、「自由時間が持ててうれしい」と思うほうが圧倒的に多い。
- 特に同居する子供の末子年齢が19才を超える層では、休日の「独り外出」に対するポジティブな気分が強い。
- 一方、同居する子供の末子年齢が13～18才の層では、「独りはさびしい」(38.2%)が高いなど、相対的にはネガティブな気分も混じっている。子供が高校生までの間は、父親も子供からなかなか離れられないようだ。

※n=休日の日中に独りで外出する層

Q. 仕事が休みの日の日中に、ひとりで外出することについて、あなたご自身ではどのように感じていますか？

※比率は各気分に対する「とても感じる」「やや感じる」の合計



※「子供との同居層」には、配偶者(母親)も同居している層のみ抽出

5. 休日日中の「独り外出」の行き先

- 外出先が一番人気は図書館(38票)。書店、古本屋(21票)も上位。本に関する施設は「独り外出」の有力な目的地。
- スーパー(28票)、家電量販店(20票)などの小売店も有力な目的地。スーパーは既婚男性には縁遠い存在に思えるが、現実的には、休日の暇つぶしには絶好の場所となっている。
- コーヒーショップ、カフェ(7票)、ファミリーレストラン(5票)、飲食店(5票)など、飲食系のお店に出向くのは少数。

※n=休日の日中に独りで外出する層229名

Q.仕事か休みの日の日中に、ひとりで外出する際の行き先として、利用頻度が多い場所をいくつでもご記入ください。

(自由回答をコーディング集計したもの)

図書館	38票	コンビニ、100円均一	6票
スーパー	28票	ドライブ、ツーリング	6票
スポーツクラブ、プール	23票	映画館、美術館、博物館	6票
書店、古本屋	21票	サッカー関連	5票
家電量販店	20票	温浴施設	5票
パチンコ、スロット、ゲームセンター	20票	ファミリーレストラン	5票
公園、体育館	18票	飲食店	5票
ジョギング、散歩、サイクリング	9票	理容店	5票
海、山、河川	9票	ドラッグストア	4票
ショッピングセンター	8票	釣り関連	4票
ホームセンター	8票	競馬場、馬券売り場	4票
病院	8票	スナック、居酒屋	4票
デパート	7票	レンタルビデオ	4票
ゴルフ関連	7票	マッサージ、鍼灸	3票
コーヒーショップ、カフェ	7票	コンサート	2票
		公民館	2票

● 休日の独りでの行動は、50～60代中心

平日の仕事帰りの「独り行動」は、30～40代や同居する子供の末子年齢が12才以下の層に多く見られたが、休日日中の「独り外出」は50～60代や同居する子供の末子年齢が19才以上の層に多く見られた。彼らの大半は、休日に仕方なく独りで過ごすのではなく、自ら積極的に独りで行動している。

休日の「独り外出」は仕事先からの帰り道ではなく、家族のいる自宅が起点となるため、小さい子供が同居する家庭では、なかなか採りにくい行動である。自分の時間や楽しみよりも、家族サービスが優先される。対して、子供が大きければ、子供自身が親から離れた行動を採る機会も多く、父親の行動自由度は高まる。同居する子供の末子年齢が高い既婚男性が外出する際には、必ずしも配偶者と一緒ではなく、独りで気ままに出掛けるケースが少なくない。これは自宅での過ごし方にも見られる特性。同居する子供の末子年齢が低い層ほど家族と一緒にの部屋で過ごす比率が高く、高い層ほど家族とは別の部屋で過ごす比率が高まる。

50～60代の既婚男性には、休日に独りでも構わず積極的に外出する層が少なくないようだ。

● 休日の独りでの行動は、簡単な外出が中心

既婚男性の休日の「独り外出」は、2～3時間程度の簡単なものが中心であり、プランを立てて遠くへ出掛けるようなものではない。気軽に出掛けられる範囲に留まっている。具体的には、「図書館」「スーパー」「スポーツクラブ・プール」「書店・古本屋」「家電量販店」「パチンコ・スロット・ゲームセンター」が主な目的地。「スポーツクラブ・プール」を除き、何か明確な目的を持って出掛ける先ではなく、暇つぶしに訪れる要素が強い場所が上位に並んだ。買い物や娯楽系のお店ばかりで、コーヒーチェーンなど飲食系のお店は上位には挙がらなかった。

一見、既婚男性には縁遠いスーパーだが、2番目に多い目的地に挙げられた。スーパーは最寄りにあって訪れやすい。彼らが何を求めてスーパーに向かうのか、出先での行動パターンを探り、ニーズに応える施策を提案できれば、休日のスーパーは既婚男性にとって、さらに魅力的な目的地になる。

「独り外出」の際には、平均で1500～2000円が消費される。1回あたりでは僅かだが、月単位ではそれなりの金額になる。休日の日中は彼らが自由にお金を使う機会であり、外出が習慣的ならば、安定的な消費市場と言える。彼らの期待に応じて訪問頻度を高めることで、それなりのメリットが得られるだろう。

● 休日の日中は、独りで自由に過ごせる時間

大それた外出ではないが、それでも「自由時間が持ててうれしい」「好きなことに自由に取り組める」という気分を持つ層が7～8割にのぼる。逆に「独りはさびしい」としたのは少数。休日の「独り外出」をポジティブに捉える層が多数派。

今回の調査では、同居する子供の末子年齢が13～18才の層で、「独りはさびしい」という気分を持つ比率が38.2%と相対的に高かった。同居する子供の末子年齢が19才以上の層のポジティブな姿勢と比べて、対照的な結果だった。子供が高校を出る年齢になるまでは、父親も子離れする気分には、なかなかないのかもしれない。子供が大学に入ったり、就職したりして自立する年齢になって、父親もようやく自分の時間を楽しむ気分になるようだ。

子供の年齢による父親の気分の変化については、その傾向が普遍的なものか、さらなる検証が必要であり、次の課題としたい。

トピックスリサーチ

既婚男性の独り行動に関するマーケティングデータ
～休日 編～

発行日 2014年 6月13日

発行・調査分析 朝日大学 マーケティング研究所
〒460-0002
愛知県名古屋市中区丸の内3-21-20
TEL : 052-961-4576

お問い合わせ marketing@alice.asahi-u.ac.jp